第２回　東箱崎小学校・箱崎小学校　通学区域協議会

日時：令和６年 12 月２日(月)19:00～
会場：箱崎公民館　地域団体室

―会議次第―

１　議題

具体的な取り組み手法について

２　連絡事項

（１）次回開催日程、会場

日程：令和７年２月下旬

会場：東箱崎公民館　講堂（予定）

（２）議事（予定）

取り組み手法（案）に対する意見について
取り組み手法（案）の決定

具体的な取り組み手法

1　東箱崎小・箱崎小への九州大学箱崎キャンパス跡地の開発の影響

東箱崎小学校の通学区域内にある九州大学箱崎キャンパス跡地での住宅開発により、東箱崎小学校の児童数が段階的に増加し、最大で950人程度となる見込みです。
※ 跡地の公募においては、東箱崎小・箱崎小両校区の教育環境に配慮した住宅供給となるよう、総供給戸数と年間供給戸数の条件を設定

令和10年度

東箱崎小学校	
児童数	350人程度 ＋特支学級
学級数	概ね12学級 ＋特支学級

箱崎小学校	
児童数	520人程度 ＋特支学級
学級数	概ね18学級 ＋特支学級

九州大学箱崎キャンパス跡地の
住宅開発による児童数増加の見込み

【優先交渉権者提案】
ファミリー向け分譲住宅
総供給戸数：2,000戸
年間供給戸数250戸（８年間）

【児童数増加の想定】
ファミリー向け分譲住宅
１戸あたり0.3人の児童が発生

【開発地域の児童数増加の見込み】
段階的に600人程度増加

住宅開発後の見込

東箱崎小学校	
児童数	950人程度 ＋特支学級
学級数	概ね30学級 ＋特支学級

箱崎小学校	
児童数	520人程度 ＋特支学級
学級数	概ね18学級 ＋特支学級

2　学校規模適正化実施方針に基づく取り組み手法について

九州大学箱崎キャンパス跡地の開発の影響により、東箱崎小が過大規模校化することが見込まれることから、学校規模適正化の実施方針に基づき、課題の解消に向けて取り組み手法を検討します。

過大規模校
（31学級以上）
→ 取り組み手法 →
○学校の分離
○通学区域の変更
○特別教室等の増設

小規模校
（11学級以下）
→ 取り組み手法 →
○学校の統合
○通学区域の変更
○施設一体型小中連携教育
○合同授業の拡充

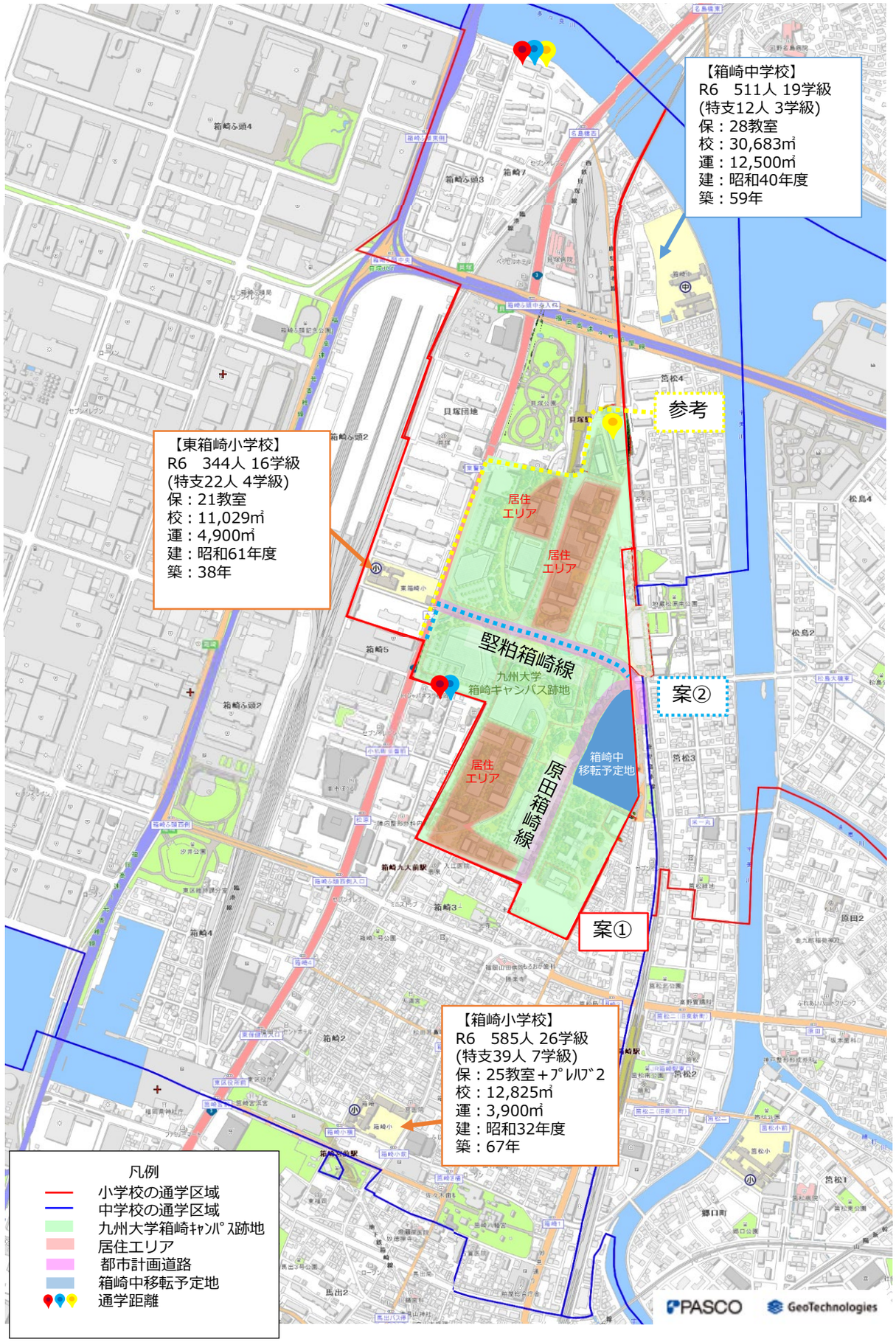
同じ行政区、同じ中学校区の中で手法を検討します

3　東箱崎小の過大規模校化への取り組み手法の検討

取り組み手法	検討の条件	検討に向けた校区の状況
学校の分離	将来に渡って新設校の設置が必要な場合に検討する。	小学校の用地は確保しなくても良いように、跡地開発の公募において、総供給戸数2,000戸の制限が設けられた。
通学区域の変更	通学区域を変更することで適正規模の学校となる場合に検討する。	同じ中学校区には箱崎小学校があり、東箱崎小学校との通学区域を変更することで双方が適正規模となる。
特別教室等の増設	学校の分離と通学区域の変更のいずれも困難な場合に検討する。	学校の分離も通学区域の変更も行わない場合、児童数増への対応として、東箱崎小学校に特別教室等を増設する。

第１回協議会において「子どもたちにとって、１番良い方法を」とのご意見を頂いたところであり、箱崎小学校の教育環境の確保を図りつつ、東箱崎小学校の過大規模校化への対応として、通学区域の変更について検討します。

4 通学区域の変更について



九州大学箱崎キャンパス跡地への通学区域の設定にあたり、

案①：従来の通学区域を変更しない場合

案②：都市計画道路の堅粕箱崎線より南側を箱崎小学校の通学区域に変更する場合

参考：九州大学箱崎キャンパス跡地を箱崎小学校の通学区域に変更した場合

について、住宅開発がなされた後の児童数・学級数の最大見込と通学距離や教室不足の状況など、教育環境における影響を比較します。

令和10年度（九州大学箱崎キャンパス跡地の開発前）の児童数推計値をもとに、住宅開発を加えたピーク時の児童数、学級数、課題等については下表のとおりです。

		案①	案②	参考
		従来の通学区域を変更しない場合	都市計画道路の堅粕箱崎線より南側を箱崎小学校の通学区域に変更する場合	箱崎小学校の通学区域に変更した場合
東箱崎小	R10児童数	350人程度＋特支学級		350人程度＋特支学級
箱崎小	R10児童数	520人程度＋特支学級		520人程度＋特支学級
住宅開発による児童数増見込（R20頃想定）		東箱崎小に＋600人	東箱崎小に＋300人 箱崎小に＋300人	箱崎小に＋600人
東箱崎小	児童数	950人程度 ＋特支学級	650人程度 ＋特支学級	350人程度 ＋特支学級
	学級数	概ね30学級 ＋特支学級	概ね24学級 ＋特支学級	概ね12学級 ＋特支学級
	通学距離 （一番遠い居住地から学校まで）	1.6km （箱崎7丁目）	1.6km （箱崎7丁目）	1.6km （箱崎7丁目）
	増築建替等	教室数不足分を増築	教室改造等	整備不要
箱崎小	児童数	520人程度 ＋特支学級	820人程度 ＋特支学級	1,120程度 ＋特支学級
	学級数	概ね18学級 ＋特支学級	概ね24学級 ＋特支学級	概ね36学級 ＋特支学級
	通学距離 （一番遠い居住地から学校まで）	1.2km （箱崎6丁目）	1.2km （箱崎6丁目）	1.7km （箱崎6丁目）
	増築建替等	現在と同規模以下の校舎建替	学級数増に対応した規模の校舎建替	校舎建替（規模等）課題あり
評価		東箱崎小の教室不足への対応が必要となる。	平準化により、学校規模の適正化が図られる。	箱崎小の建替え規模等に課題が生じる。